

# 教育相談課だより No.4



## 不登校の改善に向けて

茨城県の不登校者数は増加の一途をたどっています。不登校の問題は、今に始まったことではありませんが、様々な提言がされているにもかかわらず、改善が進まないのが実情です。不登校児童生徒を担当する教員にとっては、児童生徒にどのように接したらよいか、保護者にどう声をかけたらよいか等、具体的な対応の仕方について悩むところだと思います。

11月26日（火）に「不登校対応研修講座」が実施されました。この講座は、毎年受講希望者が多く、不登校への対応が学校にとって大きな課題となっていることがうかがわれます。この講座では、不登校対応の第一人者である開善塾教育相談研究所所長の藤崎育子先生から、豊富な経験に基づいた具体的な対応の仕方について、講義がありました。具体的な対応の仕方について、2点紹介いたします。

### ①自分で考えることの大切さ

不登校児童生徒を集めた合宿では、食事は自分でよそうようにしているとのことでした。不登校だからといって気を使いすぎ、周りの大人が手をかけすぎないことが大切で、自分で食べられる量を、自分で考える

ことが大切なのだそうです。このことは、家庭でも学校でも同様です。つつい手をかけすぎず、自立の芽を摘んでしまわないように配慮することが必要です。

### ②自己肯定感に着目する

家の中で最もよい手伝いは、食事作りとのことでした。火や刃物を使うことは、少なからず緊張する上、食事を作ったことを家族がほめたり、感謝したりしやすいからだそうです。他者から頼られたり、感謝されたりする経験が、自己肯定感を高めるようです。

藤崎先生から具体的な関わり方のコツを学んだ後には、スクールカウンセラーの袴塚景子先生とスクールソーシャルワーカーの福島恵美先生から実践発表をいただきました。具体的にどのような仕事を行っているか、学校の教員との連携や留意点について、詳しく発表していただきました。学校が専門家と協働する必要性を深く考えさせられる内容でした。

新たな不登校児童生徒が出ないように、あるいは不登校児童生徒が学校に来られるようにするためには、関わる全ての教員が、ちょっとした対応のコツを知る必要があります。同時に、一人で抱え込むのではなく、学校全体で対応する必要があります。

教育相談課では、平成29年度からの2か年、「不登校に対する学校の組織的・計画的な支援」の主題で研究を行いました。（参照：研修センターWebページ研究—研究報告書—平成29年度—教育相談に関する研究）学校を組織的に機能させることに焦点を当てた研究であり、不登校問題の解決の一助となると考えます。また、普段の学校生活で、児童生徒に居場所を作ることも大切な視点となります。12月26日（木）に予定される教育相談課の研究発表会は、この点に視点が当たった研究内容となっていますので、ぜひ研究発表会に参加いただきますよう、併せてご案内致します。

### 【茨城県教育研修センター研究発表会】

日 時  
会 場  
研究主題

令和元年12月26日（木） 9時00分受付

茨城県教育研修センター大研修室

「児童生徒の自己指導能力を育む生徒指導」

—解決志向アプローチの考え方を生かした

ガイダンスとカウンセリングの機能の充実を通して—